

科目名	精神看護学方法論	対象学年・時期	2 学年・後期
講師	非常勤講師・専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間
授業概要	多くの精神科病院が急性期治療中心の方向に舵を切り、入院期間は確実に短縮している。さらに2013年に障害者自立支援法が障害者総合支援法に切り替わり、その翌年には障害者権利条約が発効するなど、精神障害者支援の法制度も次々と更新され、訪問看護も広まってきた。しかし、長期入院患者は相変わらず多く、また社会全体としてみても、うつ病をはじめとする職場におけるメンタルヘルス上の問題をもつ労働者の増加、アディクションや発達障害への対応といった新たな問題が出現している。これらの状況を踏まえ、入院か地域かに関わらず、精神障害を抱える人々や家族の回復（リカバリー）を援助の中心に吸え、病理や問題に限らず、当事者のもつ力（ストレンクス）あるいはレジリエンスなどポジティブな可能性に注目して看護を学んでほしい。、心を病んだ人を前にしてその人を理解する過程そのものが看護であること、患者と看護師の関係性が治療と深く関係していることを理解してほしい。		
授業形態	講義・グループワーク・ロールプレイ		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象理解に必要なアセスメントの視点がわかる。 2. 精神看護におけるケアの方法がわかる。 3. 精神科病棟の特徴と治療的環境がわかる。 4. 精神科リハビリテーションの概念がわかる。 5. 地域生活を支える社会資源がわかる。 6. 救急医療現場における精神科科対応と看護がわかる。 7. 対象の生きづらさと向き合い、自己理解を深めることができる 		
授業計画	回およびテキスト該当箇所	学習内容	担当者
	<ol style="list-style-type: none"> 1. ② 第4章 2. ② 第5章 3. ② 第6章 4. ② 第7章 5. ② 第8章 6. ① 第9章 7. ② 第9章 8. ② 第9章 9. ② 第9章 10. ② 第9章 11. ② 第9章 12. ② 第10章 13. ② 第10章 14. ② 第10章 15. 終講試験 	精神科看護における対象の理解 精神科看護におけるケアの方法 入院環境と治療的アプローチ 精神保健活動とリハビリテーション 救急医療現場における患者支援と* 看護の倫理と人権擁護 事例に学ぶ看護の実際 事例に学ぶ看護の実際 事例に学ぶ看護の実際 事例に学ぶ看護の実際 事例に学ぶ看護の実際 臨地実習から学ぶ 臨地実習から学ぶ 臨地実習から学ぶ	専任教員 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 *教科書注意 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 オレム・アンダーウッド理論 ストレンクスモデル プロセスレコード 専任教員 専任教員 専任教員
使用テキスト	ナーシンググラフィカ精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 第5版 出口禎子 株式会社メディカ出版 ②精神障害と看護の実際 第5版 出口禎子 株式会社メディカ出版 国民衛生の動向2024/2025第71巻第9号 小田清一他 厚生労働統計協会		
事前・事後学修	各章末の「重要用語」の意味を調べ学習し、授業に臨むこと。 「社会福祉」の講義資料を復習し、講義に持参すること。		

評価基準および評価方法	筆記試験 80% 課題（12～14回講義分）20%
備考	